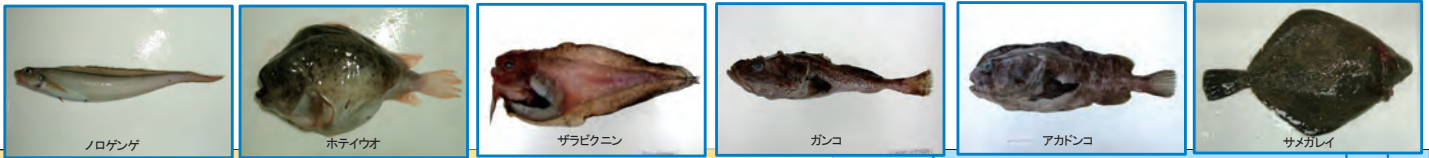
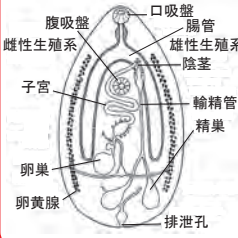


めざせ!! 日本近海産魚類の二生吸虫相解明



二生吸虫は寄生虫のひとつです
 二生吸虫類は扁形動物門吸虫綱に属する動物で、脊椎動物の主に消化管で生活する寄生虫です。体は扁平で、通常二つの吸盤があります。口と消化管をもちますが、多くは肛門がなく消化管は行き止まりです。ほとんどの種類が雌雄同体で、ひとつの体にオスとメスの生殖器官をもっています。魚類だけでなく、ヒトに寄生する種類も多く知られています。



二生吸虫類はエサとともに取り込まれます
 寄生虫のすみかとなる動物を宿主と呼びます。なかでも、大人の寄生虫がすんでいる宿主（ここでは魚類）を終宿主とよびます。寄生虫は魚類の体内で卵を産み、卵は海中に出て孵化します。幼生は自力で泳いで巻貝類の体内に入り、发育して数もふえると再び泳ぎ出て、今度はいろいろな種類の動物の体内に入りさらに发育します。このように、寄生虫が发育するための宿主を中間宿主と呼び、二生吸虫類はふたつの中間宿主をもっているのが普通です。第2中間宿主が終宿主に食べられると、いよいよ大人になります。

寄生虫はここが面白い
 寄生虫は、生活の場や生きるためのエネルギーなど、多くの部分で宿主にたよっています。そのため、寄生虫の分布は宿主となる動物の分布に大きく支配されます。しかし寄生虫には、終宿主を乗り換える（宿主転換）ことで分布を広げていくという現象がよく見られます。一方、特に二生吸虫などは複雑な生活史をもつことから、環境の影響を受けやすく、分布を広げる妨げになる要素はむしろ多そに見えます。寄生虫の分布拡大や多様化のメカニズムは、いまだ謎に包まれているのか。寄生虫を調べるおもしろみのひとつです。

- 図の見かた**
- 国立科学博物館で調査した海域
 - □ 熱帯・亜熱帯性の種
 - □ 温帯性の種
 - □ 寒帯・亜寒帯性の種
 - □ 深海性の種



倉持 利明(くらもち としあき)
 1955年(昭和30年)生まれ
 東京水産大学(現:東京海洋大学)、
 東京農工大学卒業、岐阜大学大学院
 連合獣医学研究科修士
 博士(獣医学)、獣医師
 寄生蠕虫類(吸虫、糸虫、線虫など)の分類、
 系統分類、動物地理の研究。日本近海産魚類
 の寄生虫相を明らかにすることを目標としている。
 写真は、小笠原諸島鳥島の小笠原水産センター
 で調査中の筆者。